

鮫洲と認知機能検査

塚田 實

「免許証更新のための検査と講習のお知らせ」のハガキが届いた。いつもは最寄りの世田谷警察署で更新していたが、次回の免許更新時は七十五歳になるので、「認知機能検査」と「高齢者講習」という手続きを踏まねばならない。早速鮫洲運転免許試験場に予約を入れ、八月の初め出かけた。鮫洲試験場を訪れるのは三回目だ。京急本線鮫洲駅で降り、試験場に向かう。前に訪れたときは駅からずっと道の両側に代書屋が立ち並び、呼び込みの声が溢れていた。ところが今回気付いたのは、駅前の一軒だけだった。更新手続きの機械化が進んだせいだろう。

こちら辺りと周りを見回しても、試験場が分からない。改めてじっくり眺めると、目の前の大きな建物が試験場だった。昔は古い低層階の建物だったので、イメージがガラッと変わり気付かなかったのだ。

一回目の訪問はアメリカ免許の日本免許への切り替えだった。一九七六年アメリカに留学したとき、運転免許を持っていなかった。アメリカでは免許がないと生活できない。友人がレンタカーをし、夏休みの誰もいない大学の駐車場で、実技指導してもらった。友人はさぞかし怖かっただろうに、優しく教えてくれた。筆記試験を受けて仮免許を受け、友人に同乗してもらい道路で練習を重ね、試験を受けると合格だった。

二回目は、アメリカ駐在中に日本の免許が失効したので、パスポートの記録でアメリカ在住期間を証明し、免許を更新した。

認知機能検査の詳細は警察庁のホームページで紹介されている。イラスト記憶問題は十六のイラストが四パターンあり、そのうちのどれかが出題される。六十四のイラストを覚えることが可能なのだ。他には時間の見当識と時計描写があり、これは問題ないので、イラストを十分事前勉強した。

配られた試験結果をそっと覗くと百点だった。長い間試験など受けたことがなかったので、中学生の時のように嬉しかった。後は実技を伴う高齢者講習を受けてから免許更新だ。